

## 委員会等の会議録

1 会議名	第4回愛南町学校統廃合検討委員会	
2 議題	(1) 保護者アンケートの中間報告について (2) グループ協議について (2) その他	
3 開催日時	令和3年2月26日(金) 19時00分から20時00分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5 傍聴者数	※非公開会議	
出席者		
6 委員	出席 20名 欠席 0名	
7 担当所属	所属名	学校教育課
	担当職員 (職・氏名)	教育長 中村 維伯 課長 岩井 正一 課長補佐 近田 幸信 係長 本多 大輔
8 その他の 出席者	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
近田課長補佐	定刻となりましたので、ただ今から第4回愛南町学校統廃合検討委員会を開会します。
委員長	(開会あいさつ)
近田課長補佐	(本日の資料の確認) それでは、早速協議事項に移ります。ここからの議事進行につきましては、委員長にお願いします。
委員長	それでは、協議事項の「(1) 保護者アンケートの中間報告」について、岩井学校教育課長が御説明します。
岩井課長	<p>まず1ページは、アンケートの全体の集計になっています。回答率は、86.3%ということで、高い回答率だと受け止めています。一般的なアンケートでは、3割回収できたら有効だと言われてまして、4割になると非常に高いようです。今回は、特に学校関係というピンポイントでのアンケートですので、当然数字は高くなるだろうと思っていました。大体7割くらい集まればかなり良いだろうと予想していましたが、それを上回る回答率でした。それでは、1ページ目のところを御覧ください。</p> <p>「2. 学校規模」のところでは、「現状で良い」と回答した人が65%です。「3. 学校の統合」のところにも関係しますが、「無回答」は回答がなかった人を表しています。無回答をどのように受け止めるかと考えますと、「統廃合に反対でも賛成でもどちらでも良い」か、又はあまり関心を持たれてないというように考えられるのではないかと考えています。次は「3. 学校の統合」についての賛成、反対等の回答です。これについては、やはり予想はしていたのですけれども、「やむを得ない」という回答が最も多くありました。これに「賛成」と回答した分の合計が(統廃合に)肯定的な意見で、7割くらいを占めています。15%前後の方は、「反対」と回答しています。次にそれぞれの回答を選んだ理由についてですけれども、(統廃合に)肯定的な回答では、「同年代の人間関係が広がる」や「集団生活に必要な資質や能力が養われる」を理由とした人が多く、「クラブ活動や部活動の選択肢が増える」という回答も多かったです。これらに続いて「集団活動が効果的に展開できる」の回答が多くありました。(統廃合に)反対の理由としては、「目が届く、細やかな指導を受けら</p>

れる」が最も多くなっています。これは「2. 学校規模」での回答で「現状で良い」が多くありましたが、今の学校に不満はないということの表れだというふうを受け止められます。小規模の学校ほど「活躍の場が多く、たくさん経験できる」の選択率が高かったです。そして、「環境の変化による子供への影響が心配」とか「地域との関係性が薄くなる」といった理由が上位になっています。前回、学校運営協議会の意見等をお渡ししていますが、その中にもこれらの理由が自由意見の中で同じように書かれていたと思います。また、自由意見として記入のあったものを一覧にして資料に添付していますので、お時間のあるときに目を通していただけたらと思います。次に小学校の結果については、全体の集計とは別に平城小学校、城辺小学校及び一本松小学校の小規模校での集計とそれら以外の過小規模校の集計との3パターンを用意しています。グラフの形は大きくは変わりませんが、5ページの小規模校の「2. 学校の統合」のところを見ると反対は11%ですが、7ページの過小規模校の方では反対が28%で、2.5倍ほどの違いがあります。これは当然のことだろうと思います。この中には「反対」が4割を超えている学校もありました。(小さい学校は)どうしても分母が少なくなるので、一人当たりの回答がパーセントに大きく影響します。次に9ページの中学校の全体集計ですけれど、これも小学校の全体集計と大体同じような形になっています。(小学校で)「反対」を選択した方のうち、自由意見を書いている方々の内容を見てみますと、過小規模校の反対と小規模校の反対との意味合いに違いが感じられました。小規模校の「反対」とは、「大きな統合を(更に)一つにする」というようなことへの反対のように感じられます。「小さい学校を(統合で)引き受けることは賛成」のような意見もありました。過小規模校の意見を見ると、やはり「できる限り存続させてほしい」という意見での反対が多いと感じています。反対の意見にどのようにアプローチして、そこをどうカバーするかということは、また議論を重ねていく必要があるのかなと感じています。最後の11ページは、就学前の保護者のアンケート結果です。これも同じようなグラフの形になっています。「無回答」の率が増えていますが、「今はまだ分からない」という理由で回答が来なかったのかなと受け止めています。このアンケートは2月18日に回収し、集計は僅か1週間足らずで行った上に件数も1,000件を超えていたのでまだ不十分かもしれませんが、資料として提供させていただきます。

	<p>した。今回、QRコードを使って回答ができるようにもしましたが、QRコードでの回答は、全体の71%と非常に高い割合でした。いうところでは、「町コミ」をすごく活用されている地域の学校などは、もっと高い割合でした。保護者の中にはこういった(アンケートに)スマホを利用することに慣れていたり、また、今後配付される一人1台端末が持ち帰りもできるようになれば、こういったアンケートや学校とのやり取りは、こういう形を使っていくようになるのだろうというふうに思います。以上、簡単ですがアンケートに関する概要の説明とさせていただきます。</p>
委員長	<p>説明が終わりました。何か質問などはありませんでしょうか。</p>
委員	<p>アンケートの中の「2. 学校規模」では、「現状で良い」の回答がもうほとんどを占めているのですが、これは決して「統廃合せずに今のままで良い」ということではなく、「現在の学校教育でうまくいっている」という意味だと捉えて良いのでしょうか。それから「3. 学校の統合」については、「将来のことを考えるとやはり統廃合も必要あるいはやむを得ないのではないか」というように捉えようかと私のグループでは話をしていますが、どうでしょうか。</p>
岩井課長	<p>私の説明が不足していました。今、〇〇委員がおっしゃったとおりだと受け止めていただいて、この後のグループ協議をしていただけたらと思います。</p>
委員長	<p>そのほかございませんでしょうか。なければ、続いて協議事項の「(2) グループ協議」に移ります。</p>
副委員長	<p>それでは、これからグループ協議の流れを説明します。資料2を見てください。各班の進行まとめ役は、1班は〇〇委員、2班は〇〇委員、3班は〇〇委員です。最初は進行役の指示に従っていただきながら、これまでの検討委員会で話し合ったことやアンケート結果を参考に、皆様個人としての思いや意見を各テーブルにある付箋に書いてください。付箋は、青が肯定的意見、赤が反対的意见、黄色が中間的意见とします。この作業は、5分程度でお願いします。次に、付箋に書いていただいた意見等を基に、統廃合についての方向性などの意見交換を20分程度でしていただきますようお願いいたします。それから模造紙に</p>

	<p>付箋を張り、同じような意見ごとにまとめて分類します。その後進行役が中心になってグループで話し合ったことを5分程度でまとめてください。最後にグループごとに話し合った結果を発表していただきます。限られた時間ですので、発言するときは簡潔にお願いします。なお、御自身の意見を強要したりほかの方の意見を否定したりすることのないよう、認め合いながら和やかな雰囲気を作って話し合ってくださいますようお願いいたします。経過時間については、私の方からお知らせします。御質問等はございませんか。ないようでしたら、協議を始めてください。進行の方、よろしく申し上げます。</p>
<p>委員全員</p>	<p>(3班に分かれてグループ協議を行う。)</p>
<p>副委員長</p>	<p>時間になりました。よろしいでしょうか。それでは、1班から発表をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>1班で話し合ったことを発表させていただきます。やはり地域と学校とのつながり(の希薄)が反対意見では圧倒的に多い感じですが、けれど、統廃合を進める理由として、一つは中学校でいうと部活動、小学校でいうと複式学級、そういったところがネックになっているので、統廃合も考えていかなければならないという意見です。小規模校では、スポーツ少年団を通していろいろなスポーツに会うことができたというような意見もありました。学習面は、小さい学校の先生方が本当によくがんばっていただいて、一人一人に目を届かせて、余り意欲のない子供にも一生懸命勉強させて学力を上げていただいているという意見です。大きな学校は、同年齢で意見交流をする学習の機会が増えるということなので、大きい学校での勉強のメリットというものもやはりあります。小さい学校のメリットもあるのですが、小さい学校の子が今後統廃合によって大きい学校の中に入ったときに力が十分に出し切れるかなという心配の声もありました。(統合先の学校までの)通学距離や時間の心配もあります。それから、この検討委員会が始まったときは一挙に廃合をするような方向なのかなと捉えていたのですが、段階的に、「数年後にこういう形になっている」ということを先に示して行って、議論の中で「そういうふうになるのは仕方ないな。その方が良いな」と思えるような期間が必要になってくるのではないかなという意見も出ました。人口の減少とその期間、その辺りを見</p>

	<p>据えた意見が皆で出せたら良いかなというふうに思っています。以上です。</p>
副委員長	<p>1班の皆さん、ありがとうございました。続いて2班の委員の皆さん、よろしくお願いします。</p>
委員	<p>十分な議論とまではいかなかったのですが、(ホワイトボード上の)こういう形で(意見が)出ました。賛成の意見としてはこれだけの枚数が出ていて、全体的には(統廃合は)もう仕方がないかなという感じで捉えています。理由としては、やはり人間関係が広がるとか集団活動のいろいろな多様化など、そういうメリットがあるのではないかなという意見が多かったと思います。反対意見の方は、通学が心配だということと目が届き難くなるということ、その辺りが心配だということですが、全体としては時間の問題であり、統合に向けて動いていくということも仕方がないのかなと捉えています。それから、実際統合ということになると、タイミングが非常に難しいのではないかなと思います。やはりある程度(統廃合の)基準があったり計画的なものがあった上でないと、その時々で関係者だけで(統廃合を)判断するというのはなかなか難しいのではないかなという意見もありました。以上です。</p>
副委員長	<p>2班の委員の皆さん、ありがとうございました。最後に3班の委員の皆さんお願いします。</p>
委員	<p>やはり魅力ある学校づくり、まちづくりをとすることに尽きるのではないかなと思います。学校には大規模校も小規模校も魅力があるのだらうと思いますので、そういったところを洗い出して統廃合へとならないといけないなというところが取りあえずの結論です。いろいろな意見が出たのですが、子供同士の関わりが増えたり同年代の友達が増えることは良いことで、やはり学年に一人か二人ではもっとももっといろいろな活動ができる可能性があるのにできなくなります。その可能性をどんどん生かしていかないといけないと思います。部活動については、もう今まで出たとおりですが、いろいろな選択肢を子供たちに与えられますし、合同チーム(としての活動)でも仕方がないのかなと思います。それと、魅力ある学校づくりの中では地域との関わりもあります。地域としては統合してもしなくても、そし</p>

て学校がなくなったとしても(学校との)関りを続けていかなければなりません。学校がなくなっても地域にできることを続けていかなければなりません。反対意見の中にもあったのですが、どうして統合するのか反対の方たちにも理解を得るための時間が必要であり、しっかり説明していくことが必要だと思います。それから学習面ですが、(過小規模校は)大勢の中で集団としての活動はほとんどできないのですが、町の方でもこれから取り組んでいく ICT 化を活用して、オンライン授業やリモート会なども学習の中に取り組んでいけるのではないかなと思います。ただ、そういった個別化で ICT を使っていく、それらを家庭でもやっていく中では、やはり保護者の負担があると思います。小学校の低学年辺りは自分では操作できないこともあると思うので、保護者の協力等も増えるのではないかなと思います。良いところばかりではないのかもしれませんが、それを使いこなせる技能の差、技術といったところも、新しい ICT についてしっかり活用できるようなところを進めていただきたいと思います。通学方法については、先ほども(意見が)出たとおりですが、やはりスクールバスを利用するのが一番だと思います。かつては1時間かけて歩いて通学していた子供たちもいました。そういったことを考えると、スクールバスでの1時間と歩いて1時間とではどちらが良いかといえば、やはりスクールバスでの1時間の方が良いと思います。これは直接は言えないことですが、かつては1時間かけて歩いてでも学校に来ていたこともあったのは事実です。また、流れとしては統合なのですけれど、学校を残す方法も検討する必要があると思います。例えば産業を発展させたり、あるいは学校を特化させる何かの方策などです。新居浜辺りでは英語を活用し、オールイングリッシュで成果を上げていると思います。何か特化させる方法はないものかと思います。町の特色は何だろうと考えるとき、町外の方からすると愛南町はすごく魅力たっぷりの町だと思われているのですけれど、我々自身はその魅力を当然のことにように受け取っていて、これを大事にしていこうという気持ちは少し薄いのではないかと思います。そういったことを掘り起こしていったその特徴をどんどん進めていくことを学校の中に含めていくこと、それが今日の愛媛新聞に出ていた「南宇和高校の志願者数は120人の定員に対して79人しかいない」というところにもプラスに働いて、志願者数にもつなげていって、特色などをもっともっと子供たち自身にしっかりとPRしていったら、魅力ある町や学校

	が必要だという意見でした。以上です。
副委員長	3班の委員の皆さん、ありがとうございました。以上でグループ協議は終了します。皆様お疲れさまでした。ただ今の意見をこれからの検討内容の参考にさせていただきます。それでは、全体の進行をお返しします。
委員長	ありがとうございました。続きまして、協議事項の「(3) その他」に移ります。何かございませんか。お気付きの点など何でもかまいません。
岩井課長	失礼します。次回についてですけれども、今日いろいろと協議議論をしていただいたものを参考にさせていただいて、例えば課題に対する提案などをこちら側でも考えて、それを基にもう一度このような形でグループ協議をさせていただけたらと考えています。よろしくお願いします。
委員長	そのほかございませんでしょうか。
委員全員	(意見なし)
委員長	皆様、大変御苦労さまでした。本日の御意見は、今後の参考とさせていただきます。貴重な御意見、協議ありがとうございました。それでは、以上で全ての協議が終了しましたので、進行を事務局にお返しします。
近田課長補佐	それでは、閉会あいさつを副委員長が申し上げます。
副委員長	(閉会あいさつ)
近田課長補佐	副委員長、ありがとうございました。 以上をもちまして第4回愛南町学校統廃合検討委員会を閉会します。本日は大変お疲れさまでした。